

昭和57年度大学院卒業論文（気象学関係） 及び気象大学校卒業論文一覧

昨年度に引き続き、表記一覧を掲載します。今回は、地区編集委員の協力を得て調査しましたが、掲載もれ等がありましたら御面倒でも御通知いただきたいと思ひます。

〔天気〕編集委員会 担当：鈴木康夫

1. 大学院卒業論文

いずれも理学系研究科、氏名（大学、専攻名）、論文題目、発表雑誌名の順、*印はいわゆる論文博士で、昭和57年度中に審査が行われ学位が授与された者であるが参考のため併記した。

昭和57年度 博士論文

成田英器*（北海道大 論文博士）

An Experimental Study on Tensile Fracture of Snow—in Relation to Avalanche Release—Contribution from the Institute of Low Temperature Science, Hokkaido University (In Press)

渡辺善八*（北海道大 論文博士）

積雪の破壊強度とクリープ現象に関する研究 *Glaciology* (1981), 福島大理科報告 他

村上正隆（北海道大 環境科学）

Studies on Aerosol Scavenging by Precipitation Particles, *J. M. S. J.*, 61 に一部発表

郭 宗欽（東北大 客員研究員）

放射対流・移流平衡モデルとそれによる気候敏感度の研究

未発表

林 陽生*（筑波大 論文博士）

Aerodynamical Properties of an Air Layer Affected by Vegetation

Environmental Research Center Paper. No. 3

野本真一*（筑波大 論文博士）

A Climatological Study of Visibility in Japan, *Geoph. Mag.* 40(3), 193-284

中村圭三*（筑波大 論文博士）

Local Climatological Study of the Nocturnal Cold Air Drainage on the Mountain Slope

未発表

蘇 鮮燮（東京大 地球物理）

An Observational Study of the Role of Convection in

the Baiu Situation with Special Attention to the Arakawa-Schubert Cumulus Parameterization, *J. M. S. J.*, に投稿中

新野 宏（東京大 地球物理）

順圧不安定における有限振幅波の振舞

J. M. S. J., 60 に一部発表. *J. Atmos. Sci.*, に投稿中

宝月拓三（東京都立大 地理）

関東平野における冬期地上気温場に関する研究(英文) *Geographical Reports of Tokyo Metropolitan University Vol. 18*

松尾敬世*（名古屋大 論文博士）

大気中における雪片の融解現象に関する研究

J. M. S. J., 59

伊藤朋之*（名古屋大 論文博士）

南極大気中のエーロゾルの性状と起源に関する研究

J. M. S. J., 54, 58, 59, 他

余田成男（京都大 地球物理）

Studies on the Nonlinear Interactions in a Two-layer, Quasi-geostrophic, Low-order Model with Topography, *J. M. S. J.*, 61

昭和57年度 修士論文

真木雅之（北海道大 地球物理）

盆地における冷却過程の研究

北海道大理学部地球物理学研究報告に投稿中

木幡繁嗣（北海道大 地球物理）

Experimental Study of the Influence of Temperature on the Habit of Negative Crystals Grown in Ice

未発表

本山秀明（北海道大 地球物理）

融雪期における小流域の水収支

北海道大低温科学に投稿中

大泉三津夫（北海道大 地球物理）

斜面積雪内の応力の実験的研究

北海道大低温科学に投稿中

- 海老沼孝郎 (北海道大 地球物理)
氷の加圧焼結の研究
未発表
- 山沢弘実 (東北大 地球物理)
積雪面上の大気層内の熱輸送と摩擦抵抗の研究
未発表
- 工藤泰子 (筑波大 地球科学系)
オホーツク海気団にともなう海洋性寒冷気流の特性
未発表
- 黄 水鎮 (筑波大 地球科学系)
地表面熱収支に及ぼす土壌水分の効果
未発表
- 鳥谷 均 (筑波大 地球科学系)
管平盆地における冷気流と冷気湖の特徴
未発表
- 鈴木基雄 (筑波大 環境科学系)
安定層内における乱流構造の解析
未発表
- 寄崎哲弘 (筑波大 環境科学系)
接地層における顕熱フラックスの発散
未発表
- 隈 健一 (東京大 地球物理)
Global Response of Atmosphere to Tropical or Sub-tropical Forcing by Heat Sources.—in Northern Summer— J. M. S. J., に投稿中
- 林 祥介 (東京大 地球物理)
Enhancement of Internal Gravity Waves by the Chemical Heat Release due to Oxygen Recombination
未発表
- 田口彰一 (東京大 地球物理)
A Statistical Study of 500 mb Geopotential Field over the Northern Hemisphere with Emphasis on Blocking Situations
未発表
- 田中そう太郎 (東京都立大 地理)
八ヶ岳の森林限界—わが国の森林限界の植生地理学的再検討—
未発表
- 栗栖俊治 (東京理科大 地球物理)
Studies on Variations of Rn-222 Exhalation Rate and Radioactive Aerosols of Rn-222 Daughters in the Lower Atmosphere
未発表
- 岡田良平 (東海大 海洋科学)
季節風吹出時における日本海からの蒸発量と北陸での降水量との関係について
未発表
- 大和政彦 (名古屋大 大気圏科学)
大気中のサルフェイト粒子の分子状態に関する研究
Tellus (1983), 35B, 197-205
- 野久保武史 (名古屋大 電気工学)
正極性落雷による電界変化の周波数解析
Research Letters on Atmospheric Electricity
- 廣岡俊彦 (京都大 地球物理)
An Observational Study of Normal Mode Rossby Waves in the Upper Stratosphere
J. Atmos. Sci., に投稿中
- 根井 充 (京都大 地球物理)
稜線上の風速変動の構造について
Six International Conference on Wind Engineering, 1983 (光田 寧, 塚本 修と共著)
- 北村修一 (大阪府立大 環境工学)
Flexible な粗度上の乱流特性
未発表
- 堤 之智 (九州大 物理)
火星の Diurnal Heating による平均東西風の生成について
未発表
- 片平宏明 (九州大 物理)
中緯度における低気圧の構造解析
未発表

2. 昭和57年度気象大学卒業論文

- 井上長俊
大気中の大規模波動擾乱と平均場との相互作用のデータ解析的研究
未発表
- 梶原靖司
海霧の発生に関する数値実験的研究
未発表
- 川野 浩
寒気吹き出し期における日本太平洋沿岸の熱・水蒸気収支と雲の生成
未発表
- 財前祐二

- 低気圧系における雲の研究
未発表
- 滝 良二
局地循環に及ぼす乱流輸送過程の影響について
未発表
- 森 一正
台風発達機構について
未発表
- 古館友通
有限要素法による歪みの解析
未発表
- 若山晶彦
地震波初動部分による震源位置の推定
未発表
- 須田卓夫
日本海の中層水について
未発表
- 島津好男
非接触型振動変位測定器を使用した水銀自記微気圧計
の試作
未発表
- 松本 積
マイクロコンピュータの製作と利用
未発表
- 宮本仁美
建築物の陰の長波長放射収支の観測
未発表

学術用語集気象学編改訂作業についての経過報告

本学会では前期（第21期）において、学術用語委員会を設置し、1975年作成・発行された学術用語集気象学編の改訂作業に着手した。改訂の主たる目標は増補であるが、同時に修正、削除も適宜行うこととした。特に1975年版用語集で不足している放射および雪氷関係の用語を追加している。また、1975年版では合成語・複合語が、「単なる合成語」、「固有名詞を冠した複合語」は省くという編集方針により比較的少なかったが、今回はこれを若干緩和した。前期の改訂作業は、各専門分野ごとに提案された増補、修正・削除案をABC順に整理し、これ

ら提案を調整した時点で終了した。

今期（第22期）の学術用語委員会は、一部委員の交代を除き原則として留任した委員により印刷原稿作成を目標とし、作業を継続している。これは先の増補提案等と1975年版用語集掲載分をあわせて編集する作業であるが、この段階でも再度調整が必要となり、現在調整および校正を行い、ほぼ原案が完成している。

この原案に基づき、学術審議会学術用語分科会の審議を受け、その後、印刷発行の手続きが開始される予定である。（日本気象学会 学術用語委員会）

月例会「長期予報・大気大循環」のお知らせ

主 題 長期予報・大気大循環
日 時 昭和59年2月23日（木）13時30分～16時
会 場 気象庁内

連絡先 気象庁長期予報課 酒井重典
(TEL. 03-212-8341 内線 330)